

スローガン

Lead the Way!

率先しよう!

戦争や未曾有の物価高騰... 先の見えない時代だからこそ率先して“福祉”を守り、ひろげよう

活動方針

- 1) リニューアルした中長期計画の浸透を図る
- 2) 社会情勢の大きな変化に機敏に対応する(物価高騰、人材不足、他業種との格差等々)
- 3) 行政計画の見直しにあたって当法人の意思をしっかりと伝播していく
- 4) 財政基盤の立て直しの礎を築く(DX化による業務効率化による生産性の向上等)
- 5) アフターコロナにおける地域に根ざした地域における公益的な取組を再興する(継続課題)

具体的取組み

I 中長期計画に基づく具体的取組み

1. 社会情勢の変化(物価上昇等)に即応すべく法人本部がかじ取りをして各事業所に指南できる体制を整える。(管理職会議や各事業所の財務状況のチェック等)
2. 景気の変動に伴い予測される人材不足(流出含)に対応すべく、選択と集中による(採用事業所の固定と採用後の人事異動)人材への投資を図る。
3. 外部講師依頼や実習依頼を積極的に受け入れ、将来の明星園の担い手を確保する。
4. 拠点単位で収支バランス(収入の最大化を目指す)が取れ、且つ計画に基づき設備投資等が実施できるよう管理職者のレベルアップを図る。(継続課題)
5. 中長期計画の具体化に向けたアクションを起こす(行政計画への意見具申、躯体設備投資の実行スケジュールの作成等)
6. DX化について検討し、必要に応じて各事業所が行う設備投資等の間接的支援を図る。

- ・ 物価上昇の波は顕著であり、総体的に当法人の事業のかじ取りを厳しくしているが、京都府、宇治市からの激変緩和措置(補助金)等を活用し、また光熱水費の節約等を通じて何とか対応した。国の補助金もあり、総じて前年度よりは経費は遞減されているが、夏場の異常気象等予測が追いつかない事態もあり、何とかやりくりすることができたという感がぬぐえない。
- ・ 人材不足への対応については、職員やその家族、知人等の人のネットワークを頼りに人

材の確保に努めた。小倉・伊勢田拠点での採用に力を入れて、採用後の就労先を決める際に採用予定者と折衝を行い、数名、他拠点での採用につなげた。しかし、当該拠点で採用しても、他業種からの転職のため馴染めずに、すぐに辞めてしまう事例もあり、採用後のフォローアップも含めた総合的な対応が求められている。こども園については、日ごろの SNS 等による PR 活動等の成果もあり、しっかりと採用活動を行うことができた。

- ・ 実習については、前述の小倉・伊勢田拠点を中心に積極的な受け入れを実践している。下半期は、養成機関への講師派遣等を通じて人材の確保に努めた。(形として成果が表れるのは数年先である)
- ・ 法人傘下の事業所の収支管理については、毎月理事者が試算表をチェックし、縷々指導した。4 月から 7 月の四か月で成績が芳しくなかった事業所には経営改善計画を作成指示し、理事会を通じて二人三脚で改善に向けて歩んだ。白川明星園の数拠点及び菟道居宅等が経営困難に陥ったため、人事異動等も含めて担当理事が中心となり、事態の改善に努めた。
- ・ 中長期計画の進捗については、担当常務理事が行政と折衝を続け、介護保険事業計画等の行政計画に対して意見具申した。こども園の建替えについては継続協議とすることができ、グループホームナイスライフいせだにおいては、宇治市補助金を活用し、浴室改修をすることができた。
- ・ DX 化については、上半期経理担当常務理事がメインバンクと折衝し、一部 IT 化を図るなど少しずつではあるが前進させることができた。ペーパーレス及びキャッシュレスへの取り組みは次年度も積極的に進めていく必要がある。

II 地域における公益的な取組み

1. 各事業所・拠点において実施している、地域における公益的な取組みを展開、充実させ、社会福祉法人としての役割を社会に向けて発信する。

(以下、実施事業)

取組拠点 (事業所)	取組内容
白川明星園 ケアハウスあさぎり 白川介護サービスセンター 伊勢田明星園グループホーム	平安ロマン号 サロン白川との交流・合同事業 神明カフェ なごみカフェ/認知症相談窓口の開設 伊勢田保育園年長組との合同散歩 認知症相談窓口の開設/認知症キッズサポーター養成講座
菟道明星園 小倉明星園 伊勢田グループホーム 伊勢田明星園 明星っ子こども園	三室戸小学校児童絵画展/明星地藏盆 うたごえサロン/小倉趣味クラブ 認知症キッズサポーター養成講座 (小倉・神明小) ボランティアルーム開放事業 園庭開放 (遊びの広場) /クリスマス会/ピアノの会 卒園児同窓会に伴う施設開放支援

2. アフターコロナを見据え、新たな公益的取組を模索し積極的にチャレンジしていく (こども食堂、地域の井戸端拠点、公用車の更なる有効活用等々) ※継続課題
3. 法人全体の取組として実践研究(交流)発表会を開催する※継続課題

- ・ 法人傘下の各事業所の実践する地域における公益的取り組みについては、それぞれの事業所の報告に委ねる。
- ・ アフターコロナの新たな公益的取り組みについては、漸くそれぞれの地域における行事が再開されはじめ、そのなかに各拠点加わるかたちでスタートしている。未だ模索中であるが、少しずつ地域の皆さんとともに新たな企画を築いていきたい。(祭り関係については、保健所の指導が厳しくなり食べ物の出店が困難になってきている。営業許可の取得も含めて次年度も検討していく。)
- ・ 法人主催による実践研究発表会の開催は、スケジュールの関係で開催できなかったが、法人が積極的に調整に加わり、府老協主催の実践研究発表会に応募した。(11月開催)グループホームの発表が見事グランプリを獲得した。

Ⅲ ガバナンスの強化に向けた取り組み

1. 本部のサポート体制の強化※継続課題
 - i 法令遵守状況の本部チェック体制の強化を図る。(運営指導にあたってのフォロー等)
 - ii 省令通知に基づく法定研修を実施する。(事故防止研修等)
 - ii 各拠点でのBCP計画の策定や実地研修のサポートを行う
2. 情報の開示の視点から令和4年度版「一年のあゆみ」を発行する。
3. 虐待防止、人権擁護の視点から令和5年度人権学習会を開催する。
4. 世の中の動きに機動に対応できる(資金調達、資産、人事労務管理等)組織態勢をつくる。(管理職会議、常務会、理事会の開催等)※継続課題

- ・ 上半期に法令遵守委員会を1回開催し、次年度に迫る介護保険改正の内容について学びを深めた。下半期には令和6年4月の介護報酬改定に向けて管理職者会議等で情報交換を行った。
- ・ 11月に、虐待事故防止研修を開催した。また、法定研修の準備については、年間研修スケジュールサンプル等を管理職者会議等で示し、法人傘下の事業所のフォローを行った。
- ・ BCP計画の策定については、すべての介護保険事業所で策定することができた。
- ・ 10月29日に令和4年度一年のあゆみを発刊した。
- ・ 10月に人権学習会をZoomにて開催した。
- ・ 年間通して理事会を6回、理事協議会を2回、常務会を6回、管理職者会議を4回開催した。法人の抱える課題に対して理事者が機動的に動ける態勢を整え、事故苦情案件に対しても真摯に対応した。